



INDEX	PAGE	PAGE
新年度に向けて	1	クリストファーニュース 7
聖書のこぼれ	1	学友会活動を振り返って 7
私の教育研究	3	キャンパススケジュール 8
新任教員紹介・教員人事に関する報告	4	保護者懇談会の報告 9
FDへの取り組み	5	大学院リハビリテーション科学研究科開設予定 10

2005年3月10日(木)、アクトシティ浜松中ホールにて、「2004年度学位記授与式・卒業式・修了式」を行いました。今年度の卒業生・修了生は、看護短期大学部看護学科103名、看護短期大学部専攻科助産学特別専攻16名、看護学部看護学科113名、社会福祉学部社会福祉学科9名、大学院看護学研究科7名の計248名です。2002年に開学した社会福祉学部では、初めての卒業生である編入生9名を送り出しました。

◎クリスマス礼拝を行いました。



2004年12月22日(水)にクリスマス礼拝を行いました。厳かな聖歌隊の歌声やハンドベルの演奏の中、学生と教職員がクリスマスを祝いました。

◎聖灯祭を行いました。



2004年11月6日(土)に、「聖灯祭～テーマquatrefoil(四葉)～」を行いました。学生達による趣向を凝らした出し物や模擬店が行われました。近隣施設の方や保護者の方など多くの方が参加されました。

◎公開講座を行いました。

2004年10月23日(土)に「現代社会とこころの健康～ストレス社会を生きる～」をテーマに行ないました。本学教職員をはじめ一般の方も含め約100名の方が参加されました。



◎福祉の日記念講演会を行いました。

2004年10月19日(火)に「ベテルの家の非援助論～専門家の知、当事者の知～」をテーマに行ないました。本学社会福祉学部生、教職員をはじめ、一般の方にも多数ご参加いただき、約170名の方が熱心に話に耳を傾けていました。

発行所 聖隷クリストファー大学 看護学部/看護短期大学部/リハビリテーション学部/社会福祉学部 大学院 看護学研究科/社会福祉学研究科
〒433-8558 静岡県浜松市三方原町3453 TEL053-439-1400 FAX053-439-1406 <http://www.seirei.ac.jp>

読者アンケートのお願い

裏面の質問にご記入いただき、
ポストに投函してください。

POST CARD

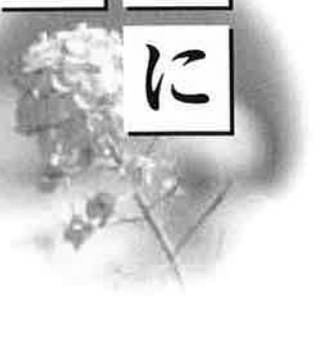
433-8790

静岡県浜松市三方原町3453
聖隷クリストファー大学
総務部 総務課 行

料金受取人
浜松北局 33
平成18年9月30日まで
切手不要

フリガナ	〒	電話	E-mail	区分
名前	住所	() () ()	@	□保護者 □その他

新年度に向けて



大学の更なる質の向上を目指して

〈ランドデザイン策定プロジェクト始動〉

学長 深瀬須加子



神のみ護りのうちにアツという間に過ぎ去りました2004年度は、本学にとりまして飛躍の年でした。2005年2月現在の学生数は1,154名、大学の状況も大きく変わりました。本学の第一次中期計画の10年を振り返ってみますと、36年の歴史を持つ看護短期大学部と専攻科助産学特別専攻に保健医療の看護職への期待を見据え、新たに1992年に看護大学、更に大学院看護学研究科を新設し14年目を迎えました。この間、少子、高齢化への対応として社会ニーズの高まる福祉への要望に応え、社会福祉学部を2002年に増設し、2年経過したところで大学院社会福祉学研究科を設置しました。いずれも2005年度が完成年度となります。

また、2004年4月に看護短期大学部を改組し、障害者や高齢の方々の生活力を高め支援するリハビリテーション学部を増設、更に2006年には大学院リハビリテーション科学研究科設置の見通しが立っており、看護教育から始まった本学は、保健・医療・福祉の3学部3大学院研究科体制へと益々充実して参ります。また、看護短期大学部看護学科は2005年度末に最後の学生を送り歴史を閉じることになります。

そして本学の看護教育は学部一本化されます。この間、大学将来構想として、聖隷の精神を踏まえ、た質の高い教育と研究、地域貢献として地域に開かれた大学を目指して参りました。

社会の急速な変動と共に、それぞれの実習現場の状況も大きく変化しております。この変化に柔軟な対応し、基礎教育としての高度な技術の修得に力を注いで参りました。即ち、教育の充実を力を入れて参りました。その一つとして、教員がより教育力を高めるため、個人、グループ、大学全体で学修を進めております。学生の現状に合わせた教材の作成、教授方法、実験・実習の指導、演習の進め方それぞれに創意工夫を、また授業公開による教員間での授業評価など、それぞれに教育力の活性化に務めております。教育の充実を計るには、学生も共に努めていかなければならないと思っております。また、学生の生活、メンタルヘルス面についての相談、支援にも力を入れて参りました。学生たちへの対応、姿勢、あり方など教職員が共に研修に努めているところで、

今年も保護者懇談会を10月に実施する予定であります。保護者の皆様からもご意見をお聞かせいただければ幸いです。引き続き本学は更なる発展、充実のため教職員一同協力の上、努力して参ります。今後もご支援のほど、よろしくお願い致します。

昨年暮にインド洋全域で巨大地震と津波による甚大な被害が発生した。神が愛であるならば、なぜこのような悪があるのか、なぜ人間は苦しまなければならないのか。もし神が愛であるならば、神は全能ではない、なぜならば悪の発生を阻止できなかったから。神は愛ではない、なぜならば神は悪の発生を阻止できなかったから。1755年のリスボン大地震の時にも、この議論があった。

ヨブは災害を受けた時「主は与え、主は奪う。主の御名はほめられたらよい」と言った。神は自然を通して尽きせぬ恩恵を私たちに与えておられる。人はそれを当たり前のように、感謝することもなく受け、必要以上に「乱獲」、自然を破壊しておきながら、地震や嵐などの災害を苦しみに遭うと受けていた恩恵を忘れて「神も仏もあるものか」と叫ぶ。あまりにも手前勝手ではないのか。ヨブはそのようなことをしなかつた。

長谷川保は聖隷の事業を進める中で多くの反対や妨害を受け、苦しみを受けたが、人を恨んだり神を呪ったりしなかつた。ヨブに倣って、神の名をほめたたえながら、新たな事業の展開に邁進した。

●聖隷学園宗主任/佐柳文男

看護学部の充実発展を願って

看護学部長 中野照代



このたび地域看護学の教授だった私が、看護学部長としての役割を引き受けていくことになり、責任の重さを痛感しているところですが、この機会に聖隷クリストフアール大学看護学部の充実発展を願う今の思いを述べてみたいと思います。

私が本学に就任して10年目になります。この10年を振り返ってみると、一時としてここに止まることのない、溢れるばかりの聖隷精神の発露を見ることができました。学部が増え、キャンパスはその姿を大きく美しく変身させ、夕方灯がともるころには一体自分がどこにいるのかをふと忘れさせるほど、静寂の中に温かな空間をかもし出しています。病む人や、ケアの必要が多くなる人々がそこに息づくたくさんの施設に囲まれて、大学がすっと立っています。

外側もさることながら、カリキュラムは開学以来三度改革があり、現在は3つのカリキュラムが混在し

ながら学年進行をしている状態です。1996年に3年次編入制度が始まり、2005年度からは学士を持った学生が2年次に編入します。また2004年度カリキュラムでは助産課程が設けられ、助産師の国家試験受験資格を得ることができるようになりました。同時に100人定員で始まった看護学部は1.5倍に学生数を増やしています。セメスター制が導入され、社会福祉学部増設に伴って、学部を超えて履修をする共通科目が設置されました。アメリカ、中国などとの国際交流も着実に歩みを進めています。これらはほんの一例に過ぎません。このように振り返ってみると、あらためて変革のエネルギーの大きいことを感じます。しかし何より大切なのはここに学ぶ学生の一人一人が、この大学で学んでよかったという充実感や誇りを持てる大学であることだと思います。そのために教職員は教育・研究と、よりよい教育環境づくりを目指して日々力を尽くしています。

看護学部の場合は、患者さんや療養者、その家族、地域住民、病院や地域で働く様々な職種など多くの人々が教育に加わり、そして、学生自身も教育される受身の存在ではなく、その輪の中にあつて、主

体的に学習し、共に良い教育の場を作り上げていく役割を持つていると考えます。

今や、40年も前に私が看護学生として勉強したころと比べようもないほど社会情勢は変化し、人々の意識や価値観は多様化しました。また保健・医療・看護の進歩は驚くべきものがあります。入院期間は短縮し、病院から生活の場へ療養の場が移るとともに健康問題は複雑化重症化しています。色々な専門職・非専門職の人々が協働して健康問題の改善解決を図る時代になりました。このような時代にあつて看護職の果たす役割は重要性を増しています。体や心について深く理解し、生活に根ざした社会的関心を持ち、科学的根拠をもつてケアのできる専門家が求められています。本学はこの3月で10回目の卒業生を世に送り出し、臨床看護、行政保健師、学校保健、産業保健、看護教育と全国様々な分野で活躍しています。この大学で培った力、豊かな感性は社会に出て大きな幹となつて葉を茂らせていくことになると思います。大学教育は十分に広がった根っこ作りというべきかもしれません。4年間は長いようであつたという間です。意識を高くもつて勉学に励んでほしいと思います。

ともに夢をつむぐ社会福祉学部を目指して

社会福祉学部長 佐々木敏明



このたび、遠藤学部長の後任として、社会福祉学部長の役割を引き受けることになりました。少し頼りないかもしれませんが、学生や教職員の皆さんとの関係を大事にして、ひとりひとりの持っている力が発揮できるような働きをしたい、そして、次期学部長に繋ぐため精一杯努力したいというのが現在の心境です。

振り返ってみると、私が社会福祉学部の教員になることを決断したのは、三つのことを大切にしたい社会福祉教育をしてみたいという夢があったからです。

一つ目は、ソーシャルワーカーとして「現実の矛盾にぶつかったとき」、その羅針盤となる理念(価値)を学ぶこと、二つ目は、現場との交流を通して「利用者との関係を形成し、他職種とチームを組める」技術を学ぶこと、三つ目は、「利用者の生活を理解し、その苦しみをわが身のこととして思い描く想像力(compassion)を育む」幅広い

い知識を学ぶことです。

大学のキャンパスの周りには、聖隷グループの医療・福祉施設が集まっています。学内で看護学部、リハビリテーション学部の学生と、お互いの専門性を尊重し、協働することの大切さを学ぶ、大学から一歩出れば、学んだことが実践されている場に接する機会があるという、社会福祉を学ぶ最適な環境がここにあると考えて決断したのであります。

目先の出来事の対応に追われ、いつの間にか、忘れかけていた夢を思い起こさせてくれたのは、3月に卒業した編入生たちです。実習や卒業研究と真剣に取り組む自らの可能性を問う姿、「私たちがこの大学で学んでよかった」と涙ながらに語る姿が私を初めに返らせてくれました。

当たり前のことですが、大学のもつ教育力は、教員だけの力ではありません。聖隷の歴史に裏打ちされた隣人愛の理念、学生自身の学ぶ意欲、そのお膳立てをしてくれる事務職員、さらに実習施設などの協力が一体となるなかで醸し出されるのです。

皆さん、夢を語り合い、つむいでいきましょう。

シリーズ/聖書のことば

主は与え、主は奪う。
主の御名は
ほめられたらよい。

旧約聖書「ヨブ記」1章21節

表1/2004年度 教員学内研修会の内容:全学を対象としたものと看護学部を対象としたもの

① 第1回 看護学部 学内教員研修会	●4月5日(月)15:00~17:00 ●1号館1階 大会講室	授業評価と教員 評価を考える
2 第1回 全学教員研修会	●4月15日(木)13:30~15:00 ●1号館6階 PC教室	第1回ADAM解剖図譜 利用講習会
3 第2回 全学教員研修会	●5月20日~5月31日	第2回ADAM解剖図譜 利用講習会
4 第3回 全学教員研修会 (主催:看護学部)	●6月30日(水)16:30~17:30 ●1号館7階 1705教室	キャンパス禁煙を推進す るために
⑤ 第2回 看護学部 教員学内研修会	●8月30日(月)14:00~16:30 ●1号館1階 大会講室	学生による授業評価(臨 地実習評価)を受けた後 の対応、対策について 考える。
6 第4回全学教員研修会 (主催:リハビリテーション学部)	●9月9日(木)10:00~11:30 ●1号館 1401教室	PBLテュートリアル教育 入門
⑦ 第3回 看護学部 教員学内研修会 /公開授業	●11月26日(金)3・4・5時限目 ●12月10日(金)3・4・5時限目 ●12月17日(金)3・4・5時限目 (3回とも同じ事を行った。) ●1号館5階 1502自然科学実験室	公開科目:身体の構造と 機能、(生理学)・実習 対象:看護学部1年次生 担当者:鮫島教授
8 授業情報技術 講習会	●1月~3月の間で、参加者の都合 の良い時間に、ネットワークが使 える場所から自由に。	授業情報技術講習 e-講習
⑨ 第4回 看護学部教員学内 研修会/最終講義	●3月5日(土)13:30~16:00 ●聖隷クリストファー大学 1号館 1701大教室	保健師としての教育・研 究を振り返って

①2004年度の「学生による授業評価」・「学生による臨地実習評価」ガイドライン
②本学部のFDの現状分析と今後の課題
③教員評価と授業評価

パーソナルコンピュータ上でネットワークを介して利用できる人体解剖図であるADAM解剖図譜の利用方法を、本学のコンピュータ教室で講習

パーソナルコンピュータ上でネットワークを介して利用できる人体解剖図であるADAM解剖図譜の利用方法を、オンラインで講習

- ①学長から:キャンパス禁煙の意図するもの(深瀬学長)
- ②学生部の取り組み(高橋学生部長)
- ③禁煙への道のり(川俣学生サービスセンター長)
- ④学生にどう訴えるか(久保健健康センター長)
- ⑤高校での取り組みの実例(大塚聖隷クリストファー高校教頭)
- ⑥医療職・福祉職を目指す学生の教育にあたって(看護学部 宮谷講師)
- ⑦参加者からの意見(フリートーキング)

「学生による授業評価」に書かれた学生からのコメントをどう受け止めるか、評価結果を教員自身がどのように分析して改善に結びつけていくのか、その後の学生に対する指導・対応、などについて、フリーディスカッションを行った。

リハビリテーション学部 宮前珠子作業療法学専攻長

- ①食用蛙の神経筋標本の作製と、それを使用して活動電位の測定と筋収縮の観察
- ②人を対象とした「感覚」の実習
a)フリッカーフュージョンテスト b)反応時測定
c)周辺視野測定 d)盲斑検出

社団法人私立大学情報教育協会がオンラインで提供する授業技術に関する講習会をネットワークを介して自学自習した。内容はPowerPointを使った講義用のスライドの効率的な作成方法で、7名の参加者があった。

看護学部 藤生君江教授の最終講義



表4



表5



表6

とができます。
「学生による臨地実習評価」もほぼ同じような仕組みで運営されています。臨地実習は少人数のグループで実施されますので、教員に直接意見が言いにくい場合もあります。そんな場合、「学生による臨地実習評価」を通して学生の考えを教員に伝える事が出来ます。委員会では、成績評価に影響しない時期に担当教員に伝わるように制度の運営に気を配っています。ただ、学生の考えがそのまま採用されるのは限りません。大学のカリキュラムは、それぞれの課程を修了するのにどうしても必要な教科から成り立ちます。例えば「生理学」の授業はいやだと思つた学生が、生理学の授業を低く評価し

ても、リハビリテーション学や看護学では「生理学」を抜きに理学療法士や看護師になるわけにはいきません。学生の意見を大切に聞き、尊重し、授業を学生の希望に添った形で実現しつつ、しかしやるべき事は学生にもきちつとやってもらうというのが、「学生による授業評価」の趣旨です。
学生からの要望を聞き、その上で、学生達に最もふさわしい形で授業を提供していく。そのために、教員自身が、学内、学外の様々な研修を通して教授法を向上させる道を探る支援をするのが、FDの活動です。
皆さんのご協力とご理解を頂けると幸いです。ぜひ、本学のホームページもご覧下さい。



FDとはファカルティ・ディベロップメントの略で、教員が授業内容や教授法を改善し向上させていくことを通して、学生の学びの質を高めていくことを支援するための組織的な取り組みのことです。聖隷クリストファー大学ではFDに関して二つの側面から取り組んでいます。
一つは、教員の教育能力の開発と啓発です。もう一つは、教育活動の評価のひもとつとしての「学生による授業評価」です。もちろん、教育活動の評価は「学生による授業評価」だけで達成されるものではありません。例えば試験を行つて学生がどれだけ教育内容を身につけたかを測定する事は重要な教育評価ですし、教員がお互いの授業を評価することも教育評価です。また、学生がどこまで学びを深められたかを自分自身で形成的に評価することも教育評価です。そうした様々な側面のある教育評価の一つとして「学生による授業評価」があります。学生が授業をどの様に感じながら受講したかを知ることは、教育の内容を高めるために必要な一つの大切な側面だと考え、本学では、教育評価の一つとして、その活

聖隷クリストファー大学の

FDへの取り組み

ファカルティ・ディベロップメント

1 教員学内研修会と教員の学外研修への参加

学内の教員による授業技術向上のための研修会、外部講師を呼んでの講演会、教員間の教育に関する自由な意見交換・討論の場であるフリーディスカッションなどを企画・実施しています。(写真1:写真2)
また、教員は学外で行われる各種の研修会に参加しています。その成果は学内教員研修会で教員全体に伝えられます。こうした取り組みの例を表1に示しました。教員学内研修会には、全学の教員を対象としたプログラムと、それぞれの学部の教員を対象としたプログラムがあります。表1では、その両方を、看護学部の例で示しています。
教員学内研修会に関して、看護学部では参加認定制度があります。表1で◇でマークした教員学内研修会に全部出席すると、修了証を受け取ることが出来ます。また、教員学内研修会の講師を担当する場合は、教員の教育上の実績として教員の個人調書に記載しています。こうした事によつて、教員が自身の教育能力の啓発を積み重ねる意識を高めることに努めています。

2 学生による授業評価(学生による臨地実習評価)

「学生による授業評価」は、表2に示した様な調査票によつて行われます。表2は、2004年度に共通科目で使われた調査票です。学生は自由な意見を表3の調査票に書いて提出できます。調査票は無記名ですので、学生は「こんな事書いたら成績に影響するんじゃないか」という心配をすることなく、考えを忌憚なく述べる事が出来ます。また、教員も誰が書いたかという事ではなく、学生達が求めている授業がどの様なものであるかを知るために、調査票を読んでいます。また、授業評価を担当するFD・授業評価委員会は、調査

票が適切に利用されるように運用上の努力をしています。表2の調査票の選択式の部分は、委員会が責任を持って集計をし、教員に返します。表3の自由記述の部分はそのまま担当教員に渡されて、担当教員が学生からの意見を直接読みます。両方を受けとつた教員は、集計結果と学生からの意見を合わせて、これから自身の授業をどの様に構成していくかという教員自身の考えをまとめて委員会に提出します。その二つの見本が表4です。教員からの返事は、委員会に集められた後、学内向けのホームページに掲載され、学生にフィードバックされることになっています。従つて、「学生による授業評価」に書いた自分たちの意見を教員がどの様にとらえたかを、学生も見ること



写真1/2004年8月30日に行われた看護学部の教員学内研修会の様子「学生による授業評価(臨地実習評価)を受けた後の対応、対策について考える。」というテーマで、少人数のグループによるワークショップ形式で実施しました。



写真2/写真1と同じ教員学内研修会で、グループで討論したまとめを発表する教員。

2005年度 キャンパススケジュール (予定)

- 4月**
- 4日 入学式
- 5日 防災訓練
- 5日 在学生ガイダンス (6日まで)
- 5日 新入生オリエンテーション (7日まで)
- 5日 新入生セミナー (9日まで)
- 7日 授業開始 (在学生)
- 9日 大学院オリエンテーション
- 11日 授業開始 (新入生)
- 5月**
- 1日 創立記念日
- 6月**
- 7月**
- 15日 春semester授業終了
- 19日 定期試験 (22日まで)
- 25日 夏期休業 (8月31日まで)
- 8月**
- 25日 定期試験結果発表
- 31日 定期試験追試・再試 (9月2日まで)
- 9月**
- 28日 春semester学位記授与式・卒業式・修了式
- 30日 秋semesterガイダンス
- 10月**
- 1日 保護者懇談会 (社会福祉学部、リハビリテーション学部)
- 3日 秋semester授業開始
- 29日 保護者懇談会 (看護学部、看護短期大学部)
- 11月**
- 5日 聖灯祭
- 21日 定期試験 (看護学部3年次生、22日まで)
- 28日 定期試験結果発表 (看護学部3年次生)
- 30日 定期試験追試・再試 (看護学部3年次生)
- 12月**
- 22日 クリスマス礼拝
- 26日 冬期休業 (1月6日まで)
- 1月**
- 30日 定期試験 (2月3日まで)
- 2月**
- 10日 秋semester授業終了
- 17日 定期試験結果発表
- 23日 定期試験追試・再試 (28日まで)
- 3月**
- 13日 卒業式・学位記授与式・修了式
- 14日 春期休業 (31日まで)

**卒業パーティを
行ないました。**

2005年3月10日に行われた卒業式の後、大学後援会・学生会・大学の共催によりオークラアクトシティホテル浜松で「卒業パーティ」を行ないました。従来は学生が各学部ごとに分かれて「謝恩会」という形で会費を出し合い行なっていました。今年度からは保護者・在学生・教職員と実習指導者等学生がお世話になった方々や来賓も交えて卒業生・修了生を祝福し、社会へ送り出すという趣旨により初めて開催しました。



**大学院看護学研究科
がん看護専門看護師(CNS)
教育開始**

本学大学院看護学研究科では、2005年度から成人看護学分野にがん看護に関する科目を加え、専門看護師(がん看護)教育を開始します。新しい科目は「がん病態看護特論」、「疼痛看護緩和ケア特論」、「がん看護学演習」、「がん看護学特別実習」、「がん看護学課題研究」の5科目です。2年後の専門看護師教育課程「がん看護」認定申請に向けて教育内容を整え、看護学大学院教育の充実を図っていきます。

**地域支援研究所を
設立しました。**

本学には看護、リハビリテーション、社会福祉の3つの学部があり、保健医療、福祉の専門家、研究者が多数います。また、聖隷の歴史が示すように、「地域支援」は本学の大切な理念の一つです。「地域支援」については、従来より大学教員を中心に個別に行ってきたが、今後は大学全体として取り組んでいこうと推進するため、2005年4月から「地域支援研究所」を設立しました。詳細は本学ホームページに掲載しています。

ことができました。昨年度行なうことができなかった分、今年スポーツ大会を行なうて欲しいという要望もあったので開催できてよかったです。

1年間を通して、私たちは学生生活をよりよいものにして活動してきましたが、完璧な仕事ができただけではありません。今年度の反省を来年度の活動に活かし、よりよい活動ができればいいなと思います。今期の私達にできることはわずしかありませんが最後まで自分たちができる仕事をしていきたいです。

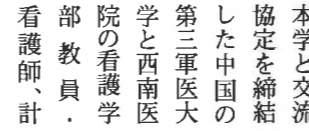
中国第三軍医大学と 交流協定を締結しました。

2004年9月21日に、中国重慶市にある第三軍医大学と交流協定を締結しました。本学からは、深瀬学長、今西国際交流センター長、顧問教授、磯沼さん(看護学部学生代表、斎藤さん(社会福祉学部学生代表)、菅原さん(リハビリテーション学部学生代表)、岡田さん(看護短期大学部学生代表)が調印式に参加しました。



第三軍医大学、 西南医院の教員・看護師が 来学しました。

2005年1月25日に、昨年に本学と交流協定を締結した中国の第三軍医大学と西南医院の看護学部教員・看護師、計



4名が来学しました。このうち教員2名は2月7日まで2週間にわたり看護学部の授業見学や3学部の実習室見学、近隣の聖隷関係施設の見学、聖隷三方原病院・聖隷浜松病院での施設研修などを行いました。また、交流協定調印式に参加した学生や3月に中国研修に参加する学生との交流会も催されました。

今後、教育、研究、看護実践という分野において更に交流を深め発展させていきます。

「産学連携に関する 業務協力覚書」を締結しました。

地域貢献推進策の一つとして2004年10月29日に静岡銀行と、また2005年3月16日には浜松信用金庫と「産学連携に関する業務協力覚書」を締結しました。今後は両社を通じて民間企業との交流の機会が増すことで、共同研究、情報交換、セミナー開催等によるコラボレーションを実現させ、地域支援を進めていきたいと考えています。

社会福祉学部 卒業研究発表会・ 国際福祉実習発表会を 行いました。

2005年2月21日に、学内において「卒業研究発表会」と「国際福祉実習発表会」が行われました。「卒業研究発表会」は今年3月に卒業を控えた社会福祉学部4年生9名が「グループホームの現状と



今後の課題」「仕事と子育ての両立支援についての考察」「痴呆性高齢者の不安の示し方に関する研究」など各自が研究課題としたテーマについて発表しました。「国際福祉実習発表会」は本学で初めて海外実習を行った社会福祉学部3年生と4年生(編入学生)の4グループ計10名が、韓国とインドでの体験について発表。「韓国に行つて私たちが成長したこと」「韓国と日本の高齢者福祉の違い」「インドの実習で得たもの」などをテーマに、実習の様子や日本との文化・価値観・福祉の違いなどについて発表しました。

※本年度の社会福祉学部卒業予定者は3年次編入生の9名です。※国際福祉実習について、本学社

会福祉学部3・4年生の選択科目で、実習先はインド・ブラジル・ルゼンチン・韓国の福祉施設の中から希望に応じて選択します。実習期間は2〜8週間。2004年度は21名が履修し、夏休みや冬休みを利用して実習を行いました。

学友会活動 を振り返って

学友会会長
看護学部
2年次生
岡部友美

リハビリテーション学部が加わってスタートした2004年。「学部同士の横のつながりを深めること」を目標にして1年間活動することができました。新入生歓迎会、聖灯祭、クリスマス祝会等の恒例行事では、多くの学生が参加できるように、他学部の学生と接する機会が増えるように工夫することができたと思います。またクリスマス祝会では、周辺施設の方々にも参加してもらい施設の利用者の方とも接することができ、聖隷クリスチャー大学の特徴を生かしたのではないのでしょうか。そして、学友会の特別企画としてスポーツ大会が開催できたことで他学部との交流を深める

「大学院リハビリテーション科学研究科」 2006年4月、開設予定

近年の医学の急速な進歩や高齢化、医療技術の高度化による重症者の生命予後の改善などにより、重度でも重複する障害や高齢者特有の疾病、交通災害の後遺症、精神障害のある人などが増加し、リハビリテーションの需要が高まっています。また、適切な医学・心理社会的リハビリテーションの充実を求め、「新障害者基本計画」が2002年度に策定されるなど、障害の早期発見と障害に対する適切なリハビリテーションの提供が求められる。高度専門職の育成が求められています。

一人ひとりの存在が尊いとする聖書の普遍的人間観を根底に据えつつ、保健・医療・福祉の実践を行うことをめざしています。リハビリテーション系大学院の2004年度現在の設置状況は、全国で17校、中部地区では2校のみで、静岡県内にはありません。現在県内で活躍している専門職の方々が働きながらより高度な教育・研究の機会が得られるように早急な大学院の開設が必要な地域であるといえます。また、大学教育の充実のためには、大学院による質の高いリハビリテーション系教員の養成が急務であるといえます。

専門職業人を育成し、人々により質の高いリハビリテーション医療を提供することをめざしています。また、近年の養成校急増による教員不足の問題を解消すべく、各領域の教育者育成に向けて専門について最新の理論、知識、技術を教育、開発するとともに、問題基盤型学習(problem based learning: PBL)や客観的臨床能力試験(objective structured clinical examination: OSCE)など最新の教育方法についても教授し、高度な教育能力をもつ人材の育成をしていきます。これらのことを実現するため、研究分野を理学療法科学系、作業療法科学系、言語聴覚療法科学系の3分野とし、理学療法科学系では発達・神経障害、内部障害など、作業療法科学系では作業科学、身体障害作業療法、地域作業療法などに関する探究や開発、言語聴覚療法科学系では言語・嚥下障害に対する探究を行います。また、既設研究科との共通科目は、保健・医療・福祉の施策や制度、研究・教育方法、医療倫理、各領域の専門的知識技術に関する科目で構成されています。さらに、看護学、社会福祉学などの領域・学問との学際的研究も同時に推進し、総合的なリハビリテーションに関する学問体系の構築をめざします。また、各領域のより高度な指導的役割を担う研究者、教育者育成のため、完成年度以降博士課程後期の設置を考えていきます。

2004年度 保護者懇談会の報告

「子供たちはどんな環境で学んでいるの？実習はどんなことをするのか？単位は取れているの？就職は大丈夫？支援体制は充実しているの？」普段行けない場所だからこそ保護者の疑問や不安は募るものです。本学では2002年度から大学後援会との共催により、「保護者と大学とのコミュニケーションを図る機会」として保護者懇談会を開催しています。参加された保護者の方々にはアンケートにお答えいただき、「ご意見やご要望を伺って、より有意義な会になるよう努めています。」

学部別懇談会



個別相談



学部別懇談会

2004年度は下記の内容で開催いたしました。2005年度も多く保護者の方々にご参加いただき、本学への理解を深めていただけるよう現在内容を検討中です。詳細が決まり次第、ご案内状をお送りいたしますので、この機会にぜひご来学ください。

第一部は学部別に企画し懇談会を行い、活発な質疑応答が交わされました。

◎看護学部

履修、実習、国家試験、就職等について

◎看護短期大学部

履修、学生生活、国家試験、就職等について

◎社会福祉学部

学業、実習内容の概要、学生生活、就職、国家試験等について

◎リハビリテーション学部

学部全体会(学生支援について、各専攻紹介等)、専攻別懇談会

昼食は学生達が普段利用している学生ホールでランチを試食しました。

第二部は希望する保護者の方々とアドバイザー等の教員、就職センター、学生サービスセンター、教務事務センター、健康管理センター、国際交流センター、総務課等の職員

による個別相談を行いました。

特に就職活動、単位取得状況、学生生活全般等についての質問が多く寄せられました。

また、希望する保護者の方々に校舎を見学していただきました。

「2004年度開催状況」
看護学部 看護短期大学部………2004年9月25日(土)
社会福祉学部、リハビリテーション学部………2004年10月30日(土)



学生ホールでのランチ

聖隷歴史資料館を見学した保護者の方々からは本学の建学の精神や聖隷の歴史に触れ、子供がなぜこの大学を選んだのか理解できたとの感想をいただきました。

参考)参加者数

	2002年度	2003年度	2004年度
看護短期大学部	20組20名	17組20名	26組31名
看護学部	29組37名	40組53名	100組121名
社会福祉学部	14組16名	27組28名	64組79名
リハビリテーション学部			17組21名

読者アンケートのお願い

前回の第24号から読者アンケートを開始しました。読者の皆様から多数の貴重なご意見をいただきありがとうございました。ご意見・ご質問に関する回答は本学のホームページに掲載するよう準備を進めているところです。引き続き学報に関するご意見をいただければ幸いです。お待ちしております。

Q1 本誌の全体の印象について○印をつけてお聞かせください。(具体的なお意見もお書きください)

- 1 読みやすい
- 2 読みにくい

Q2 本誌で興味を持たれた記事に○印をおつけください。(いくつでも)

- 1 新年度に向けて
- 2 聖書のことば
- 3 私の教育研究
- 4 新任教員紹介・教員人事に関する報告
- 5 FDへの取り組み
- 6 クリストファーニュース
- 7 学友会活動を振り返って
- 8 キャンパススケジュール
- 9 保護者懇談会の報告
- 10 大学院リハビリテーション科学研究科開設予定

Q3 本誌へのご意見、ご要望、その他大学に関するご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。